

## 令和5年度 授業改善実践研究校報告書 本川小学校

## 1 学校の課題

令和5年度の全国学力・学習状況調査結果は、全国・県平均を上回っており（表1）、令和2年度から国語科を研究教科として、特に「読むこと」の授業改善に取り組んできた成果が表れてきたと捉えられる。しかし、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめることの正答率が低かった（表2）。また、課題の解決に向けて自分から取り組むことについては、8割程度（表3）、友達と考えを伝え合うことについては、平均すると6割程度（表4）の肯定的回答にとどまっている。児童が、自分の言葉で理由や根拠を述べ、思いを語り、そこから生まれる伝え合いが、深い学びへとつながる授業を目指していきたい。

表1 全国学力・学習状況調査（国語科）平均正答率 (%)

	全体	思考力・判断力・表現力等			知識・技能
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言葉の特徴や使い方に関する事項
本校	70.0	73.1	32.7	75.6	72.3
県	69.0	75.1	29.0	73.3	72.6
全国	67.2	72.6	26.7	71.2	71.2

表2 全国学力・学習状況調査（国語科）課題が見られた設問の正答率 (%)

出題の趣旨	本校	県	全国
文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。	59.6	60.0	56.2

表3 全国学力・学習状況調査 児童質問紙調査における肯定的回答の割合 (%)

出題の趣旨	本校	県	全国
5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。	78.5	79.1	78.8

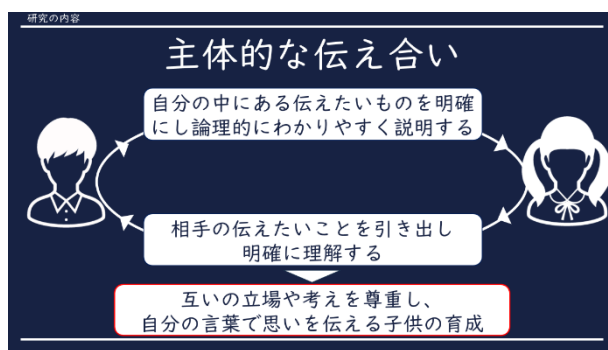
表4 国語科児童アンケートにおける肯定的回答の割合 (%)

アンケート	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	平均
友達と伝え合うことで考えを広げたり深めたりできる。	64	38	76	73	58	56	60.8

※ 国語科児童アンケートは自校作成

### 本校が目指す「主体的な伝え合い」とは

教師と子供の一問一答形式のやり取りではなく、子供が主体的に考えを伝えたり、相手の伝えたいことを引き出して理解しようとしたりして課題を解決しようとする子供同士のやり取りのことである。子供が主体的に発言し、子供同士でやり取りをしながら、協働して課題を解決していく授業を積み重ねることで、伝え合う力を高め、思考力・想像力を養いたい。



## 2 研究主題

互いの立場や考えを尊重し、自分の言葉で思いを伝える子供の育成  
～文学的な文章を読むことを通して子供が主体的に伝え合う授業づくり～

### 3 取組内容

(1) 学年間の系統性を重視し、自分の考えを主体的に伝え合うために効果的な言語活動を設定する。

【第1学年】重点指導事項：場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。(C読むこと(1)エ)  
単元名：おもいうかべながらよもう「くじらぐも」

単元で取り上げる言語活動：物語を読み、想像したことを伝えたり、演じたりする活動  
【なりきりげきをして、とうじょうじんぶつのようなすをそうぞうしよう】

叙述を基に、登場人物の表情や口調、様子などを想像できるよう、動作化を取り入れた。児童が体を動かしながら物語に入り込み、自然とせりふをつぶやく姿が見られた。また、台本に自由に考えを付け足したり、他の児童の考えを参考にしたりすることができるよう、付箋を活用した。



【第2学年】重点指導事項：場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。(C読むこと(1)エ)  
単元名：そうぞうしたことを音読げきであらわそう「お手紙」

単元で取り上げる言語活動：物語を読んで役割を決めて音読する活動  
【だい本を考えて音読げきをし、どんなかお?どんなこえ?どんなようす?どうしてそうしたの?をそうぞうしよう】

【第4学年】重点指導事項：登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること。(C読むこと(1)エ)  
単元名：気持ちの変化を読み、考えたことを話し合おう「ごんぎつね」

単元で取り上げる言語活動：物語を読み、考えたことを伝え合う活動  
【音読げきをしてごんや兵十の気持ちを想ぞうし、伝え合おう】

叙述に着目して想像する手立てとなるよう、また、児童の感覚や経験と言葉がつながるよう、動作化(音読劇)を取り入れた。児童が物語の世界に入り込みながら、動作化したことを基に、登場人物の行動や様子、気持ちの変化について考えたことを伝え合うことができるようにした。



(2) 主体的に学習に取り組むことができるよう、児童と一緒に学習課題・学習計画を考える。

読み聞かせや並行読書、調べ学習、前時までに学習したことから

学習課題を出し合う。(疑問・なぜ・知りたいこと等)

単元を通して考える「大きななぜ」(学習課題)を設定する

「大きななぜ」の解決(単元のゴール)に向けて、学習計画を立てる

指導事項に沿った「なぜ」になるように児童の疑問を精選する  
疑問を精選する視点を明確にする

ゴールが明確になる  
→児童が目的意識をもつ

毎時間の学習がつながる

児童の「考えたい」「やってみ  
たい」という思いを生かせる

みんなで考えたいこと  
はどれだろう?



文学的な文章を読む学習・・・「なぜ」(学習課題)の設定が効果的

**③ ICTを効果的に活用し、主体的に伝え合うことができるようにする。**

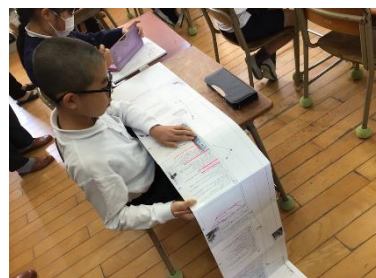
【第3学年】**重点指導事項**：登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること。（C読むこと(1)エ）

**単元名**：場面を比べながら読み、感じたことをまとめよう。「ちいちゃんのかげおくり」

**単元で取り上げる言語活動**：物語を読み、考えたことを伝え合う活動

【「ちいちゃんの気持ちバロメーター」を作って、考えたことを伝え合おう】

- ・ ちいちゃんの気持ちを考え、心情曲線「ちいちゃんの気持ちバロメーター」（場面ごとのちいちゃんの気持ちを視覚的に表し、それを屏風折にすることで、場面ごとに確認したり、場面をつなげて考えたりすることができるシート）にまとめる際、学習支援ソフト「ミライシード」の「ムーブノート」の集計機能を活用した。まず、自分の考えを明確にするために活用し、考えをもった後は、全員の意見を一斉に見ることができるようにした。また、タブレット端末にこれまで学習してきた成果物を蓄積し、活用できるようにした。



【第5学年】**重点指導事項**：人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり表現の効果を考えたりすること。（C読むこと(1)エ）

**単元名**：物語の全体像を捉え、考えたことを伝え合おう「たずねびと」

**単元で取り上げる言語活動**：物語を読み、考えたことを伝え合う活動

【綾の変化を想像してたずねびとスライドショーを作ることを通して、考えを伝え合おう】

- ・ 叙述を基に想像した主人公の心情を表現するために試行錯誤できるように、スライドショー作りを取り入れた。まず、場面に沿って、様々な人や場所と出会った主人公の心情を想像し、「綾スタグラム」と名付けた投稿画像に音声を録音した。さらに、場面ごとに作成したスライドショーをつなぐことで、物語の全体像を捉えることができるようにした。



【第6学年】**重点指導事項**：人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。（C読むこと(1)エ）

**単元名**：物語を読んで、人物の生き方について考えよう「ヒロシマの歌」

**単元で取り上げる言語活動**：物語を読み、考えたことを伝え合う活動

【「ドキュメンタリー『ヒロシマの歌のなぞを解く』」をさつ影することを通して考えを伝え合おう】

- ・ 動画編集アプリケーション「iMovie」を活用し、各場面で考えたことを撮影し、一つの動画にまとめ、物語の全体像を捉えることができるようにした。また、どの児童も主体的に学習に取り組めるようにすることをねらい、動画作成の際に、児童一人一人が役割を担うことができるようにした。
- ・ 必要な時にいつでも、素早く簡単に、学習を振り返ることができるよう、これまでの学習の成果物を、ICTを活用して蓄積しておくようにした。
- ・ 児童が見通しをもって安心して学習に取り組むことができるよう、単元を通して、同じ流れの学習を繰り返す展開とした。



国語科学力調査型テスト

表5 4月と12月の比較

(点)

	4月			12月		
	学年平均	全国平均	差	学年平均	全国平均	差
第1学年				76.7	63.8	+12.9
第2学年	81.1	67.9	+13.2	70.5	61.4	+9.1
第3学年	60.2	60.1	+0.1	54.5	55.2	-0.7
第4学年	68.2	61.2	+7.0	80.1	69.6	+10.5
第5学年	64.2	60.8	+3.4	67.2	63.1	+4.1
第6学年	66.1	64.1	+1.2	67.1	66.6	+0.5

表6 全国小学校国語教育研究大会で扱った文学的な文章の単元テスト(思考力・想像力)で評価規準がB評価以上の児童の割合(%)

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
B評価以上の児童の割合	94.6	98.3	100	97.4	93.5	94.3

国語科児童アンケートの変容(6月・12月)

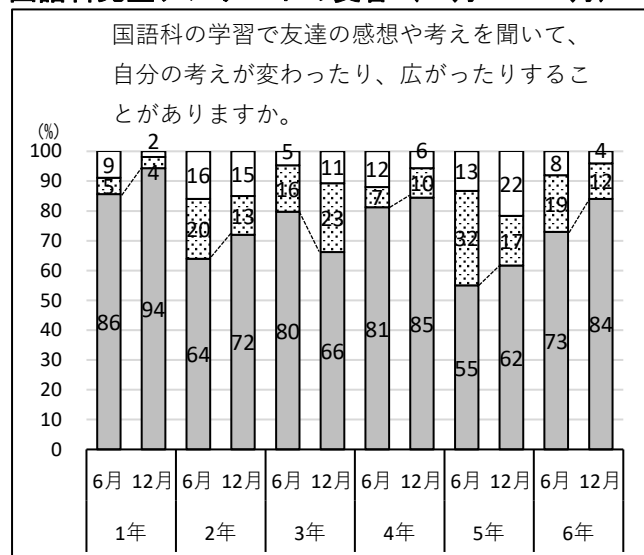


図1 伝え合いのよさに関する項目

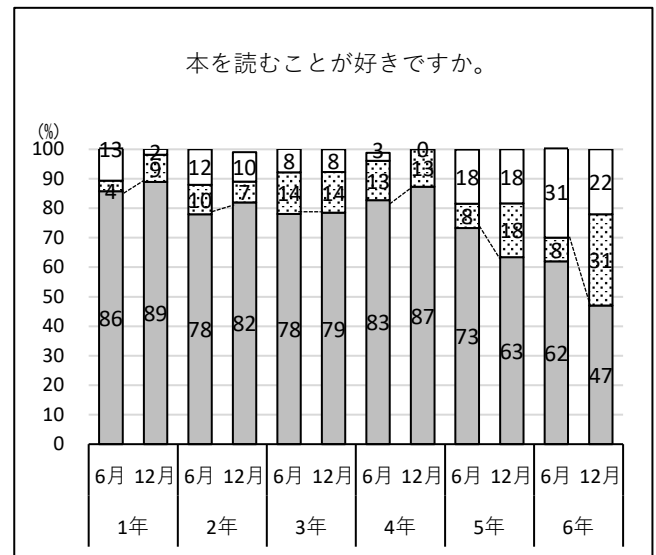


図2 読書に関する項目

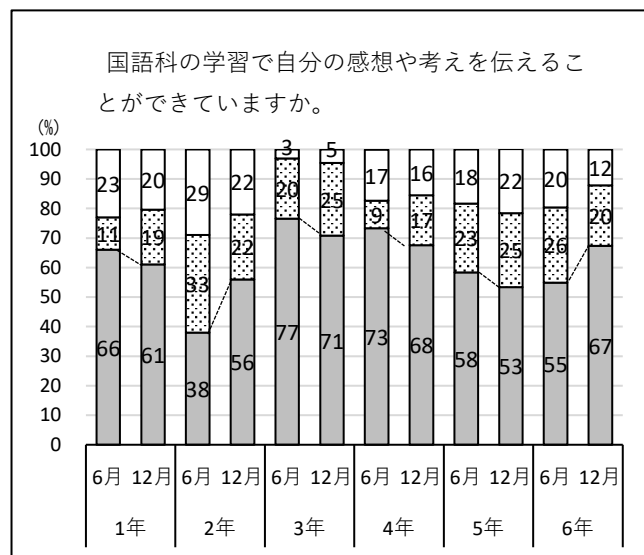


図3 伝え合いに関する項目

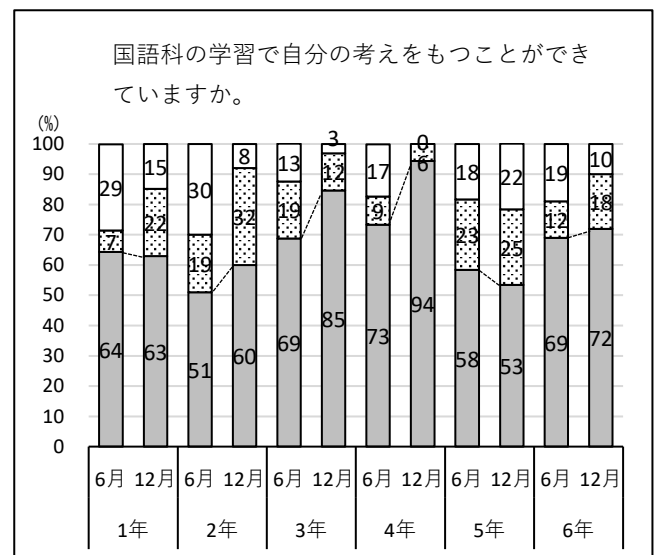


図4 自分の考えをもつことに関する項目

■ よくあてはまる・あてはまる    ▨ どちらでもない    □ まったくあてはまらない・あてはまらない

**伝え合いを設定した授業における児童の振り返りの記述・教師による児童の姿の見取りから**

**第1学年** 「なりきりげきはたのしかった。」「伝え合いで他の人の想像したことを聞いていると、自分もそれをもとにアイデアが思いつくから聞くことはいい。」と、伝え合いを肯定的に捉えている児童や、友達の考えを聞くことで自分の考えが広がった児童もいた。

**第2学年** 意味が分からない言葉をたずね合ったり、教科書巻末の言葉の意味を児童同士が説明し合ったりしたことは、児童の体験や感覚と言葉の意味をつなげることとなり、有効だった。

**第3学年** 友達の発言を受けて、自分の考えをつなげて発表することができる児童の姿が見られた。

**第4学年** 「伝え合うことで、わからないことがわかるようになった。」「音読劇をすることで、登場人物の気持ちを深く想像することができた。」「伝え合うことが楽しい」等と振り返っており、自分の考えを伝えることの楽しさを味わい、分かる喜びを感じていることがうかがえた。

**第5学年** 単元終了後の別単元の学習で、「〇〇くんの意見を聞いて、考えが変わりました。」という児童が増えた。

**第6学年** 言語活動について、役割分担をすることで、必然的に伝え合いに参加しなければならない状況が生まれ、主体的に参加する様子が見られるようになった。一方で、伝え合っている内容が理解できていない児童については、個別の支援を工夫する必要であった。

**5 研究成果****【成果】**

- ・ 「国語科学力調査型テスト」では、どの学年も全国平均とほぼ同じか上回ることができた(表5)。
  - ・ 全国小学校国語科教育研究大会(11月)で扱った文学的な文章における単元テストでは、評価基準がB基準以上の割合は、全学年9割以上を達成することができた(表6)。
- 児童が主体的に伝え合う姿を目指し研究を進めてきたが、主体的な伝え合いを工夫して設定することで、伝え合う力を高め、思考力や想像力を育むことができたと考えられる。
- ・ 「国語科学習アンケート」における「伝え合いのよさに関する項目」では、6学年のうち5学年で肯定的な評価が6月と比べて増加した(図1)。この結果は、児童の振り返りなどの具体的な記述の中にも多く見られた。
- 児童の実態に合った言語活動を設定し、伝えたくなるような伝え合いの場を設定することが効果的であったと推察する。
- ・ 「国語科学習アンケート」の「読書に関する項目」を見ると、6学年のうち4学年において、本を読むことが好きな児童の割合がほぼ同じか増加していた。このことから、0次の設定が、物語の世界に関心をもつことにつながるとともに、読書を促す掲示等の効果もあり、児童が熱心に読書に親しむ姿も見られるようになったと思われる。

**【課題】**

- ・ 「国語科学習アンケート」における「伝え合いに関する項目」では、6学年のうち4学年で肯定的な評価が下がった(図3)。児童が「伝えたくなる」ような伝え合いの場を教師が工夫して設定することはできており、自分の考えをもつことができたと回答した児童は増加したものの(図4)、実際には自分の考えを伝えることができていないと感じている児童が多いことが明らかとなった。このことから、自分の考えはもっているが、自信がないなどの理由から、自分の考えを相手に伝えることが難しいと感じている児童が多いことがうかがえる。
- 伝え合った後に、自分の考えを再度伝えたり、友達の意見を聞いて自分の考えを見つめ直したりできる時間・場を設定し、考えを深める伝え合いへと発展させていくことや、児童が「自分の考えを伝えてよかった。」と実感できるような工夫・支援が必要であると考えられる。